

尾高浅山遺跡

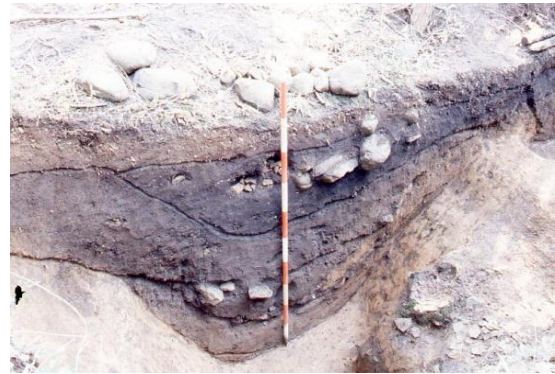
尾高浅山遺跡は米子市街の東8kmの米子市尾高の大山西山麓端の丘陵に所在する遺跡で、試掘調査で発見された城塞的な環濠集落と四隅突出型墳丘墓を特徴とする遺跡で、北側丘陵に3重の環濠集落、南側丘陵に墳丘墓群があります。

環濠は丘陵頂部を鉢巻状に巡り、第一環濠の規模は長軸110m、短軸50m。第二環濠は長軸130m、短軸60m。第三環濠は丘陵西端を半弧状に巡っています。環濠内部には竪穴住居跡10棟、集石遺構1基、配石遺構1基、袋状貯蔵穴2基が確認されています。集石は、15cm大の丸い河原石が70個ほど集めた戦闘用投石と推定されています。環濠遺構の時期は弥生時代後期前葉～中葉(2世紀)頃と考えられています。

墓群は四隅突出型墳丘墓と円形墳丘墓、段状の3基の方形墓が確認されています。丘陵頂部の1号墓は四隅突出型墳丘墓で長軸9.7m、短軸7.1m、高さ0.85mを測り、突出部はあまり発達していません。人頭大の河原石を4～7段貼り、墳裾には立石状の列石を巡らしています。主体部は未調査で不明ですが、遺物から弥生後期初頭と推定されます。円形墳丘墓は時期不明ですが、方形墓は弥生後期後葉の貼石墓と推定されています。



尾高浅山遠望



第一環濠の断面



1号四隅突出型墳丘墓



集石遺構